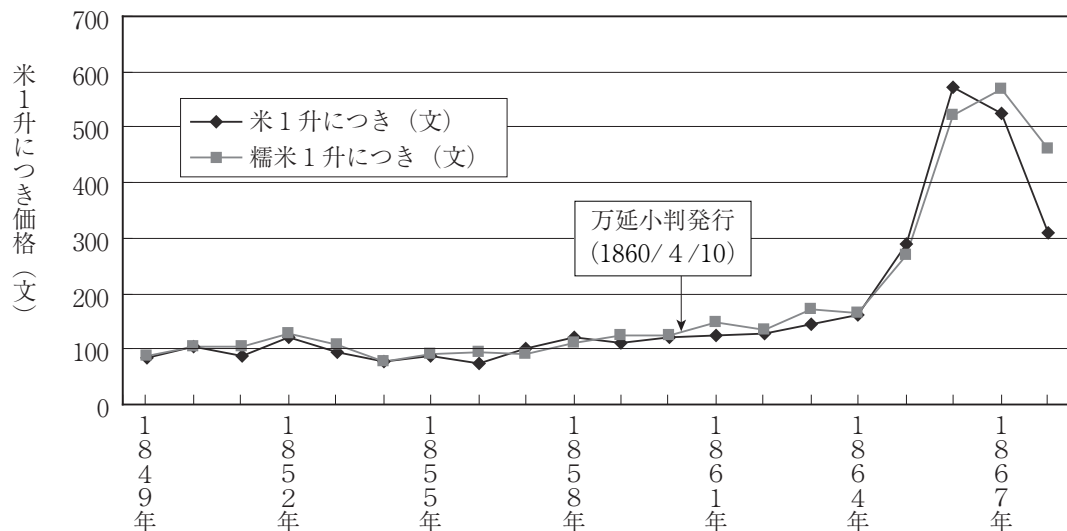


# 40 長州征討と庶民

～米相場からみた長州征討～

〈グラフ1〉 横須賀町 米相場の推移



## 1 幕末の物価上昇

〈グラフ1〉は、幕末の遠江国横須賀町（掛川市横須賀町）の米相場（米と糯米）の推移を示したものである（横須賀町の相場は「横須賀惣庄屋覚帳」（掛川市教育委員会蔵）の関連記載から抜粋した）。このグラフから特に1864（元治元）年を境に米価の急激な上昇が読み取れる（なお、燈油や小豆など他の物についても同様の傾向がある）。教科書には開港による貿易開始（1859年）と物価騰貴が関連づけられており、横須賀でもその傾向は認められるが、特に急激な物価上昇に見舞われるのは1864年からである。

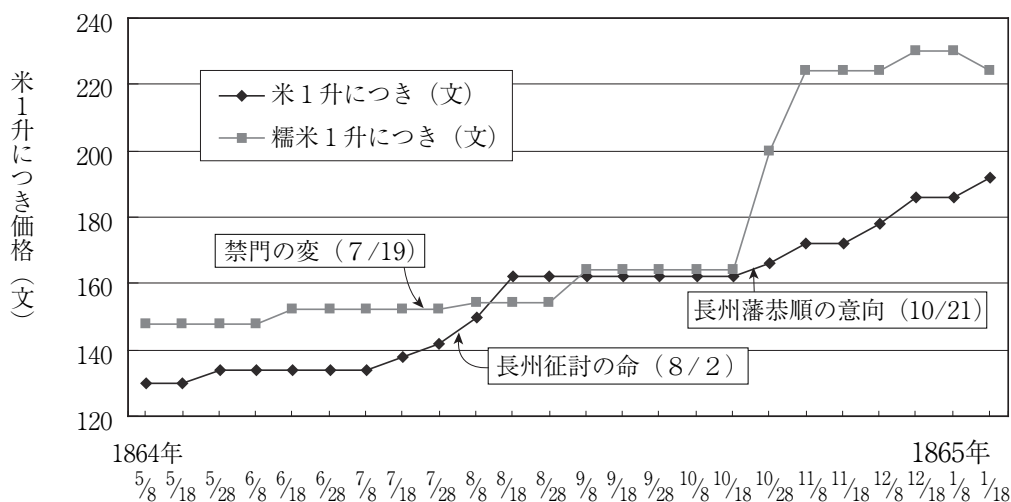
では、1864年に物価が高騰するのは、なぜであろうか。〈グラフ2〉と〈グラフ3〉は、〈グラフ1〉の高騰した期間を詳細にしたものである。1864年7月19日に禁門の変があり、その責任を問う形で8月2日に第一次長州征討が発令される。米価が高騰を始めるのはその前後である。その後、しばらく米価上昇は小康状態となるが、10月18日から28日の間で米価は再び急騰する。10月21日に長州藩が奇兵隊の解散を命じるなど幕府に対して恭順の意を示し、征長軍が撤兵をするためであると考えられる。ちなみに京都から横須賀への情報伝達は、通常10日ほどかかり、早飛脚だと7日ほど、大早飛脚だと5日ほどかかっていた。

1865（慶応元年）年に、第二次長州征討が発令されるが、この時も将軍家茂が長州征討の勅許（天皇の許し）を得た1865年9月21日頃から米価が急騰を始め、1866年8月20日に将軍家茂の死去を公表して撤兵を開始する9月10日まで高値が続いている。なお、細かいことではあるが、糯米の価格は撤兵が決まった後に高騰しており、この傾向は第一次長州征討の時も同じである。出兵の時と撤兵の時では兵糧が異なるのかもしれない。

## 2 長州征討による物価騰貴

以上のことから、米価ほか物価高騰の原因は、貿易開始とともに、2度にわたる長州征討も主因であったことがわかる。これは全国的な傾向であり、長州征討による兵糧の確保がきっかけとなって、商人による買占めや投機が行われて物価が高騰し、わずか5年ほどの間に物価が約5倍となるハイパーインフレとなったのである。主に都市に住む庶民の生活は限界に近づき、「世直

〈グラフ2〉1864年5月から1865年1月までの米相場の推移



し」の要求がより切実になっていったであろうことは想像に難くない。長州征討の失敗は政治的にも幕府を追い詰めていくが、このことが主因となる物価の高騰が都市庶民の生活を圧迫して、経済・社会的にも幕府の支配に限界を突きつけるのである。なお、1868年の<sup>ほん</sup>戊辰戦争の時は、豊作だったこともあって米価は下落している。

〈グラフ3〉1865年6月から1866年12月までの米相場の推移

